

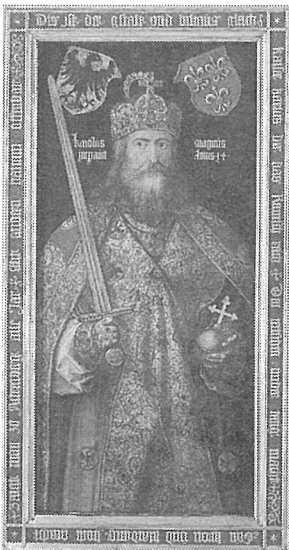
# 旧世界史 A

(解答番号  ~ )

**第1問** 図像や銅像などには、権威や正統性を示すために制作され、展示公開されたものがある。このことに関して述べた次の文章 A・Bを読み、後の問い(問1～6)に答えよ。(配点 20)

A 次の図は、デューラー作「カール大帝」(1511年頃制作)である。

図



① ルネサンスを生きた画家デューラーは、図に帝国の権力を象徴する宝物、とりわけ帝冠を精密に描きこんだ。当時、この帝冠は、カールの時代に遡るものと考えられていた。しかし、近年では、東フランク王  が教皇から帝冠を受ける際に制作されたものと推測されている。この戴冠が、神聖ローマ帝国の起源とされる。

デューラーは、当時、帝冠を含むこれらの宝物を保管していた都市  からの依頼で、この作品を制作した。図の枠部分には、「これはカール大帝の似姿であり、帝はローマ帝国をドイツ人の統治下に置いた。その帝冠と衣装は尊崇され、  にて毎年他の宝物とともに展示される」という銘文が書かれている。

② このような展示によって形成されたこの都市のイメージは、20世紀にも引き継がれた。1932年のドイツの総選挙で第一党となった  は、この都市で華々しい党大会を開催した。帝国の伝統を体現する都市で党大会を開催することで、自らの歴史的正当性をアピールしたのである。しかし、  の指導者らは、この  において開催された国際軍事裁判で裁かれることになる。

問 1 下線部㉔に関連して、ルネサンスの芸術や学術について述べた文として最も  
 適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 1

- ① シェークスピアが、『神曲』を著した。
- ② ミレーが、「落ち穂拾い」を描いた。
- ③ コペルニクスが、天動説を唱えた。
- ④ エラスムスが、教会の腐敗を批判した。

問 2 文章中の空欄 ア に入れる人物の名あ・いと、前の文章から推測できる  
 下線部㉕の意図について述べた文として最も適当なもの X・Y との組合せとし  
 て正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 2

ア に入れる人物の名

あ ユスティニアヌス    い オットー1世

下線部㉕の意図

X 都市が保管する帝冠をカールのものとして描かせることで、帝国の長い伝  
 統と結び付く都市としての地位を強調しようとしたと考えられる。

Y 古代ローマで制作された帝冠をカールとともに描かせることで、ローマ皇  
 帝としてのカールの威厳を強調しようとしたと考えられる。

- ① あ－X            ② あ－Y            ③ い－X            ④ い－Y

問 3 文章中の空欄 イ に入れる都市の名と、ウ に入れる政党の名との  
 組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 3

- ① イーベルリン            ウーファシスト党
- ② イーベルリン            ウー国民社会主義ドイツ労働者党
- ③ イーニュルンベルク    ウーファシスト党
- ④ イーニュルンベルク    ウー国民社会主義ドイツ労働者党

## 旧世界史 A

B ある大学のゼミで、「銅像と都市」というテーマで、議論が行われている。

写真 1



写真 2



教授：写真 1 は、ルーマニアの首都ブカレストのスクンテイア広場を写したものです。写真 1 に写っている銅像が誰か、分かりますか。

矢 木：四月テーゼを発表した  でしょうか。

教授：そのとおりです。この銅像は、冷戦期のルーマニアで、 の生誕 90 年を記念して建設されました。

羽 生：なぜルーマニアに、彼の銅像があるのですか。

教授：当時のルーマニアの政権が、ソ連をモデルとして工業化を進めていて、それらの政策と自らの権力を正統化するために、銅像を建設したのです。しかし、◎東欧諸国で民主化を求めた一連の革命、いわゆる東欧革命の際に、この銅像は国民によって倒され、撤去されました。

矢 木：写真 1 の銅像は、冷戦期のルーマニアの政権を象徴していたのですね。

教授：そうですね。次に、写真2を見てください。これは、ルーマニアの初代国王カロル1世の銅像です。第二次世界大戦勃発の年に、カロル1世の生誕100年を記念して、首都の王宮前の広場に建設されました。この銅像も、現在は存在していません。

羽生：なぜ無くなってしまったのでしょうか。

教授：ルーマニアの社会主義政権が、写真2の銅像を破壊したからです。

矢木：社会主義政権が写真2の銅像を破壊したのは、王政を否定するためだったのでしょうか。

教授：そのとおりです。

羽生：フランス革命の際に、王や王妃の名が付いた道路や広場の名前が変わったことに類似していますね。

教授：良い指摘ですね。さて、皆さん、本日のゼミの内容を基に、レポートを作成してください。

問4 文章中の空欄  の人物の事績について述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ポリシェヴィキを指導して、十一月革命(十月革命)を起こした。
- ② 世界革命を唱えるトロツキーを追放した。
- ③ ロシアの三月革命(二月革命)の際に、臨時政府の首相に就任した。
- ④ 第一次世界大戦中に、十四か条の平和原則を示した。

## 旧世界史 A

問 5 下線部㉔の出来事と、写真 1・2 の銅像建設について、これらが年代の古いものから順に正しく配列されているものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

5

- ① 写真 1 → 写真 2 → 下線部㉔
- ② 写真 1 → 下線部㉔ → 写真 2
- ③ 写真 2 → 写真 1 → 下線部㉔
- ④ 写真 2 → 下線部㉔ → 写真 1
- ⑤ 下線部㉔ → 写真 1 → 写真 2
- ⑥ 下線部㉔ → 写真 2 → 写真 1

問 6 前の文章を参考にしつつ、学生たちがまとめた次のメモの正誤について述べた文として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

6

### 矢木さんのメモ

東ドイツによって建設されたベルリンの壁は、冷戦(東西対立)を象徴していた。写真 1 の銅像は、ルーマニアの社会主義政権を象徴するものであった。

### 羽生さんのメモ

フランスの第一共和政では、ルイ 16 世が処刑されただけでなく、王や王妃の名が付いた道路や広場の名称が変えられた。その理由は、写真 2 の銅像が破壊された理由と類似している。

- ① 矢木さんのみ正しい。
- ② 羽生さんのみ正しい。
- ③ 二人とも正しい。
- ④ 二人とも誤っている。

**第2問** 近代以降の諸地域に見られた国内政治の変容や推移について理解するためには、国内外の様々な背景に着目することが求められる。それに関して述べた次の文章A～Cを読み、後の問い(問1～9)に答えよ。(配点 30)

A ㉑ソ連では、複数の共和国によって、連邦が構成されていた。また、各共和国には、様々な民族が混住していた。そのため、その共和国の中に、人口の少ない㉒民族の自治を認める自治共和国がつけられた。例えば、ロシア共和国の中には、タタール人の自治共和国が形成された。このように、㉓連邦(ソ連)、共和国、自治共和国という三層から成る構造が生み出されたのである。共和国や自治共和国では、学校教育を通じて、それぞれの中心となる民族の母語や歴史が教えられ、それぞれの民族意識の育成が目指された。

しかし、共和国と自治共和国の間には、利害の対立も見られた。そうした利害の調整は、連邦の共産党による強力な指導の下で、各層の共産党と行政機関が主に行った。

1980年代後半以降に改革が進み、市場経済や複数政党制が導入された。それとともに連邦の共産党の指導力が低下し、共和国や自治共和国の発言力が強まると、言語政策や、資源や土地の所有権など、政治や経済の権限をめぐる利害対立も目立つようになった。なかには、共和国からの独立や他の共和国への帰属変更といった要求をする自治共和国も現れた。このような状況において、連邦の共産党の指導力が低下していたこともあり、各層の共産党と行政機関は、しだいに調整能力を失っていったのである。

ソ連の解体後、全ての共和国の独立が国際的に承認された。一方、自治共和国の様々な要求は認められず、両者の対立は継続した。このことは、旧ソ連地域の紛争が、しばしば本格的な武力衝突に転化する一因になった。

## 旧世界史 A

問 1 下線部②の国の歴史について述べた次の文あ～うが年代の古いものから順に正しく配列されているものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 7

- あ 日本などによる干渉戦争が始まった。
- い 血の日曜日事件が起こった。
- う コミンフォルムが結成された。

- ① あ → い → う
- ② あ → う → い
- ③ い → あ → う
- ④ い → う → あ
- ⑤ う → あ → い
- ⑥ う → い → あ

問 2 下線部③に関連して、世界史上における民族自決や民族運動について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 8

- ① 両大戦間期には、民族自決の原則が、アフリカに適用された。
- ② フィンランドが、第二次世界大戦後に独立した。
- ③ 林則徐が、三民主義を提唱した。
- ④ スカルノが、インドネシアで国民党を結成した。

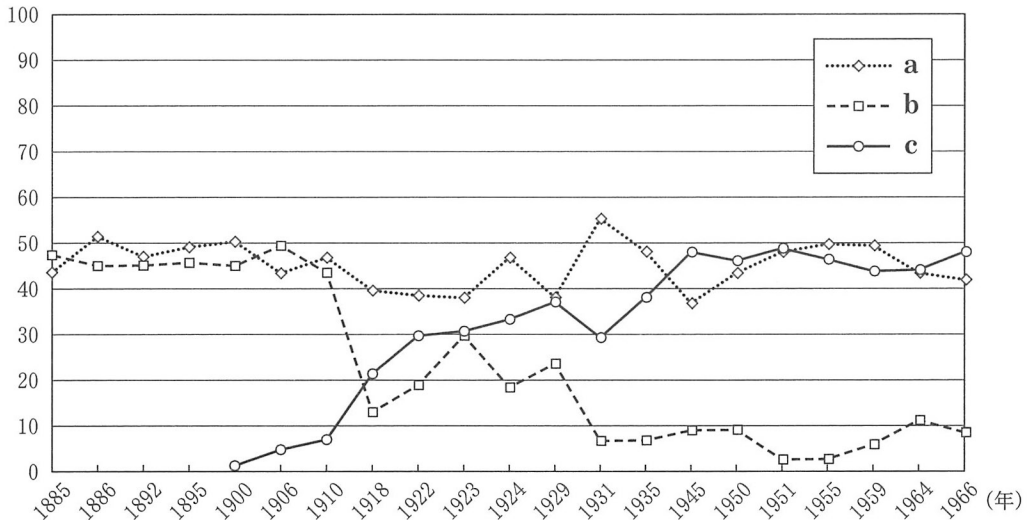
問 3 前の文章を参考にしつつ、下線部④について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 9

- ① ソ連が消滅したことによって、共和国と自治共和国の対立が解消された。
- ② 連邦の共産党は、一党独裁体制の廃止後も指導力を維持し続けた。
- ③ 各共和国では、ロシア語以外の言語の教育が禁止された。
- ④ 共和国と自治共和国は、ベレストロイカのなかで発言力を強めた。

B あるクラスで、19世紀から20世紀にかけてイギリスで行われた国政選挙における主な政党(保守党, 自由党, 労働党)の政党別得票率の推移(a~c)を示した次のグラフを用いて、授業が行われている。

グラフ

(単位：%)



(注) 1910年は2回選挙が行われたが、前半のみを記載した。なお、保守党の得票率には、「統一党」と呼ばれた時期のものも含まれる。

(ペーター＝フローラ編『ヨーロッパ歴史統計 国家・経済・社会 1815-1975』より作成)

先生：グラフから、どのようなことが見て取れますか。

北山：aの政党は、グラフで示された時期を通して、一定の得票率を維持していますが、bの政党は、グラフの後半では得票率が落ち込んでいます。aとbによる二大政党制が崩れているように見えます。

木村：bの政党と入れ替わるように、cの政党の得票率が上昇していますね。

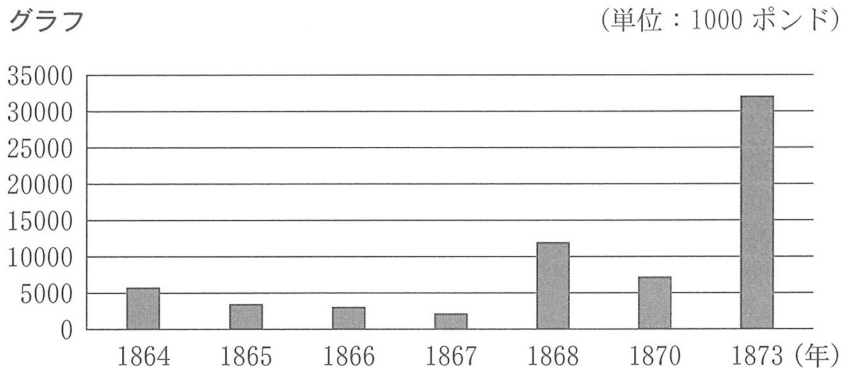
ホアン：20世紀前半にイギリスで ア ということが、その背景の一つだと考えられるでしょうか。

先生：3人とも、そのとおりですね。加えて、グラフで扱われた時代以降も、現在まで、aやcの政党の得票率は、ほぼ横ばいです。それでは、グラフを基に、イギリスの議会政治について考えてみましょう。





C 次のグラフは、エジプトのムハンマド＝アリー朝の第5代君主であるイスマーイールの統治時代の対外借入を示したものである。



(注) 1869年、1871年、1872年の値は原典に記載がないため、グラフに表示していない。

(A. E. Crouchley, *The Economic Development of Modern Egypt* より作成)

初代のムハンマド＝アリーは、西欧式軍隊の創設など、西欧から実用的な技術や制度を導入して近代化を図ったものの、従来の支配理念を維持し、西欧の政治思想に基づく制度の導入には消極的であった。一方、西欧で教育を受けたイスマーイールは、即位後、ムハンマド＝アリー以来の近代化を継続しつつ、パリに倣った首都カイロの都市改造や西欧モデルの学校制度の整備拡充など、積極的な西欧化政策を推進した。

イスマーイールの政策を支えたのは、綿花輸出による収入であった。その背景には、アメリカ合衆国で1860年代初頭に生じた戦争により、ヨーロッパにおいてアメリカ合衆国産綿花の供給量が減少し、代わってエジプト産綿花の需要が高まったことがある。1860年代後半に、アメリカ合衆国産綿花が再びヨーロッパに供給され始めると、エジプト産綿花の需要は低下し、綿花の輸出収入は減少した。しかし、その後もイスマーイールは積極的な財政支出を継続し、不足した財源を対外借入に頼るようになった。累積した対外借入の結果、1876年に財政は破綻し、エジプト財政は  ・  両国の管理下に置かれた。

両国の支配に対する不満は、ウラービーの反乱を引き起こした。 はこの反乱を武力鎮圧し、エジプトを実質的に保護国化した。

## 旧世界史 A

問 7 文章中の空欄  ・  に入れる国の名の組合せとして正しいものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ① イーフランス            ウーオスマン帝国
- ② イーフランス            ウーイギリス
- ③ イーオスマン帝国      ウーイギリス
- ④ イーオスマン帝国      ウーフランス
- ⑤ イーイギリス            ウーフランス
- ⑥ イーイギリス            ウーオスマン帝国

問 8 前の文章を参考にしつつ、グラフから読み取れる事柄と、その背景として考えられることについて述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 1868年以後の対外借入は、1867年以前に比べて多い。その背景として、南北戦争の終結に伴い、ヨーロッパにおけるエジプト産綿花の需要が減少し、エジプト財政が悪化したことが考えられる。
- ② 1868年以後の対外借入は、1867年以前に比べて多い。その背景として、スエズ運河国有化により、エジプト財政が悪化したことが考えられる。
- ③ 1868年以後の対外借入は、1867年以前に比べて少ない。その背景として、南北戦争の終結に伴い、ヨーロッパにおけるエジプト産綿花の需要が増加し、エジプト財政が改善されたことが考えられる。
- ④ 1868年以後の対外借入は、1867年以前に比べて少ない。その背景として、スエズ運河国有化により、エジプト財政が改善されたことが考えられる。

問 9 前の文章を参考にしつつ、ムハンマド＝アリーが行った近代化の性格について述べた文あ・いと、それと類似の性格を持つと考えられる清朝の近代化運動として最も適当なものX・Yとの組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

15

ムハンマド＝アリーが行った近代化の性格

あ 既存の価値観を維持しつつ、西欧から実用的な技術や制度のみを導入した。

い 西欧の思想や制度を積極的に取り入れ、立憲君主制の導入を目指した。

類似の性格を持つと考えられる清朝の近代化運動

X 変法運動(変法自強運動)

Y 洋務運動

① あ－X

② あ－Y

③ い－X

④ い－Y

## 旧世界史A

**第3問** 政治や社会における女性の地位や立場は、時代や地域によって大きく異なっていた。それに関して述べた次の文章A・Bを読み、後の問い(問1～6)に答えよ。(配点 20)

A ある大学のゼミで、フランス王家の歴史について授業が行われている。

星野：歴代のフランス王の中で、女性は一人も見つけられませんね。

教授：良いところに目を付けましたね。実は、フランスで女王が誕生する可能性がありました。1317年に生後わずか5日でジャン1世が亡くなると、姉のジャンヌが王位継承候補者となりました。しかし、彼女の継承権は、叔父のフィリップ5世によって、㉑三部会を通して否定されました。

滝沢：確か、女性の不動産相続を否定した『サリカ法典』を根拠に、女性の王位継承権を否定したのですよね。

教授：『サリカ法典』は、かつてこの地の大部分を支配したゲルマン系の ア の部族法ですね。その法典は、フランス王国では1358年に再発見されたので、ジャンヌの王位継承問題の際には用いられていません。しかし、後に、その再解釈から「㉒フランス王国は、<sup>やり</sup>“槍”から“紡ぎ棒”に落ちることはない」という格言に表される相続規範が成立しました。

滝沢：王位継承から女性を排除した背景には、何があるのでしょうか。

教授：実は、これには、ある意図が隠されていました。女性の王位継承権が否定された結果、王女の息子の血統である女系男子の王位継承も否定されました。

星野：なぜそこまで男系にこだわったのでしょうか。

教授：それは、フランス王家出身の女性を母に持つ外国の君主を王位継承から排除し、外国人によるフランス支配を防ぐためです。例えば、イギリス王は、14世紀からアイルランド併合の時期まで、しばしばフランス王位を主張していました。その主張は、女系を通じてイギリス王がフランス王家の血を引いていたということを前提としていました。

滝沢：なるほど、そのような理由があったのですね。

問 1 下線部㉔に関連して、三部会の歴史について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① ジェファソンらが起草した独立宣言を採択した。
- ② オーストリアに宣戦した。
- ③ 共和政の開始を宣言した。
- ④ 特権身分に対する課税を含む財政改革をめぐって、開催された。

問 2 文章中の空欄 ア の歴史について述べた文あ・いと、前の文章から読み取れる下線部㉕の格言の意味 X・Y との組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 17

ア の歴史について述べた文

- あ トゥール・ポワティエ間の戦いで、イスラーム勢力(ウマイヤ朝)を撃退した。
- い ポーランド分割に参加した。

格言の意味

- X 槍は男性を、紡ぎ棒は女性を表し、王位相続の原則を示している。
- Y 槍は女性を、紡ぎ棒は男性を表し、王位相続の原則を示している。

- ① あ－X
- ② あ－Y
- ③ い－X
- ④ い－Y

## 旧世界史 A

問 3 前の文章を参考にしつつ、学生たちがまとめた次のメモの正誤について述べた文として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 18

### 星野さんのメモ

イギリス王家は、両大戦間期までフランス王位を主張した。

### 滝沢さんのメモ

フランスでは、外国人による支配を防ぐために、女系男子が王位継承から排除された。

- ① 星野さんのみ正しい。
- ② 滝沢さんのみ正しい。
- ③ 二人とも正しい。
- ④ 二人とも誤っている。

B あるクラスで、冷戦期のアメリカ合衆国の女性史についての授業が行われている。(引用文には、省略したり、改めたりしたところがある。)

先生：資料1は、1959年にモスクワで開催されたアメリカ合衆国博覧会での、「台所論争」として知られる米ソの指導者による対話です。

#### 資料1

アメリカ合衆国側の指導者は、最新の台所設備を誇り、「我々は女性たちの負担を軽減しようとしている」と述べた。これに対し、ソ連側の指導者が、「共産主義の下では、女性に対するそのような資本主義的な姿勢は決して起こらない」と主張すると、アメリカ合衆国側の指導者は、「女性たちに対する姿勢は、普遍的なものだ。我々は、家庭の主婦の生活を一層便利なものになしようと努力している」と反論した。

山田：◎冷戦の下では、台所設備をめぐる議論にまで、共産主義と資本主義の対決構造が持ち込まれていて、興味深いですね。

先生：そうですね。冷戦は、米ソ両国にとって国家体制のみならず、生活様式を守るための戦いでもありました。次に、資料2を見てみましょう。

#### 資料2

第二次世界大戦が終わって兵隊たちが帰還すると、今までほとんど女性が占領していた大学にも職場にも男性が戻ってきた。昔の女性排斥の空気が社会にも職場にも復活し、女性は仕事を続けることも、昇進することも難しくなってきた。このことが動機になって、大勢の女性は結婚して家庭に帰っていった。

先生：資料2は、アメリカ合衆国で女性解放運動を率いたベティ＝フリーダンという女性が、1963年に出版した書物の一部です。



## 旧世界史 A

小 川：第二次世界大戦中は女性が職場に進出していましたが，戦後は仕事を辞める人が多かったのですね。

先 生：そうですね。戦後，女性労働者の多くが解雇されました。資料 1 と合わせて考えると，アメリカ合衆国では，女性には，主に主婦としての役割が求められていたと理解できますね。

小 川：この本が出版された 1960 年代には，㊦公民権運動が盛り上がっていました。公民権運動とフリーダンの率いた運動に関連はありますか。

先 生：良い点に気付きましたね。公民権運動は，アメリカ合衆国内で差別を受けていた人々の運動であり，女性解放運動にも影響を与えました。

問 4 下線部㉔の時期に起こった出来事について述べた文として最も適切なものを，次の㉑～㉔のうちから一つ選べ。 19

- ㉑ ロカルノ条約が結ばれた。
- ㉒ スターリング＝ブロックが形成された。
- ㉓ ロンドン軍縮会議(ロンドン海軍軍縮会議)が開催された。
- ㉔ 中ソ友好同盟相互援助条約が結ばれた。

問 5 下線部㉑について述べた次の文あ・いの正誤の組合せとして正しいものを，後の㉑～㉔のうちから一つ選べ。 20

- あ 人種隔離政策の実現を求めて展開された。
- い ワシントン大行進において，「私には夢がある」という演説が行われた。

- ㉑ あ－正    い－正
- ㉒ あ－正    い－誤
- ㉓ あ－誤    い－正
- ㉔ あ－誤    い－誤

問 6 山田さんと小川さんは、授業で学んだことを踏まえてメモを作成した。前の文章を参考にしつつ、二人がまとめた次のメモの正誤について述べた文として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 21

#### 山田さんのメモ

アメリカ合衆国側の指導者は、女性の負担軽減につながるものとして、最新の台所設備を誇っている。そのことが性別役割分業を前提にしていることを、ソ連側の指導者は「資本主義的な姿勢」と述べて批判した。

#### 小川さんのメモ

公民権運動は、ケネディ大統領在任中に公民権法成立という成果を生み、社会的に差別を受けていた女性たちの運動にも大きな影響を与えた。

- ① 山田さんのみ正しい。
- ② 小川さんのみ正しい。
- ③ 二人とも正しい。
- ④ 二人とも誤っている。

## 旧世界史 A

**第 4 問** 世界史上に見られる民族に関わる諸問題について述べた次の文章 A ~ C を読み、後の問い(問 1 ~ 9)に答えよ。(配点 30)

A カフカスは、東西をカスピ海と黒海に挟まれた、カフカス山脈の南北に広がる地域である。山脈の北側は、現在、ロシア連邦の領域である。そこにはダゲスタンなど、民族自治の権利を有する、連邦内の共和国が存在している。一方、カフカス山脈の南側には、アゼルバイジャン人、アルメニア人、ジョージア人(グルジア人)をそれぞれ主要民族とする三つの独立国がある。三国とも国内に少数民族を抱えており、時に紛争の要因になってきた。例えば、冷戦末期に起こったナゴルノ＝カラバフ紛争は、アゼルバイジャン領内に少数民族として居住するアルメニア人をめぐり、アゼルバイジャン・アルメニア間で生じたものである。

カフカスの民族的・文化的多様性は、古来、多くの外部勢力の進出と支配を受けたことによる。ローマ帝国による支配後、この地域にはキリスト教が広まり、7世紀のイスラーム勢力の進出により、イスラーム教も広がった。

16世紀、カフカス山脈南側の支配をめぐり、オスマン帝国と、イランに成立した **ア** との対立が生じた。同じ頃、北方からロシアが山脈の北側に進出し、18世紀には山脈の南側への進出を開始した。これに対する現地の諸民族による抵抗運動も見られたが、①ロシアは19世紀までにカフカスのほぼ全域を領有し、以後、冷戦終結時までこの地域を実質的に支配した。冷戦終結後も、ロシアは、独立したカフカスの三国に一定の影響を及ぼしていたが、近年はEUやNATOによるこれら三国への影響力拡大の動きも見られ、地域の不安定化の一因となっている。

問 1 文章中の空欄 **ア** の国の歴史について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **22**

- ① アンカラの戦いで、オスマン帝国を破った。
- ② アクバルが、人頭税(ジズヤ)を廃止した。
- ③ アッバース 1 世が、イスファハーンを都に定めた。
- ④ スンナ派を国教とした。

問 2 下線部②に関して述べた次の文あ～うについて、これらが年代の古いものから順に正しく配列されているものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

23

あ アゼルバイジャンやアルメニアを含む 11 の共和国によって、独立国家共同体 (CIS) が成立した。

い ザカフカス (ザカフカース, コーカサス) 共和国を含む 4 つの共和国により、ソ連が成立した。

う アルメニアをロシア領と定めたトルコマンチャーイ条約が、締結された。

① あ → い → う

② あ → う → い

③ い → あ → う

④ い → う → あ

⑤ う → あ → い

⑥ う → い → あ

問 3 前の文章を参考にしつつ、冷戦末期以降のカフカスの紛争と、その背景について述べた次の文え・おの正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

24

え アゼルバイジャン、アルメニア、ジョージアの三国は、それぞれ国内に少数民族を抱えている。ナゴルノ＝カラバフ紛争は、これら三国のうちのある国に居住する少数民族の帰属をめぐる生じた。

お カフカスは、しばしば大国の進出と支配を受けてきたが、カフカスの民族の中には、こうした大国支配に抵抗するものもあった。チェチェン紛争は、現地の民族がロシア支配からの独立を目指して生じた。

① え — 正      お — 正

② え — 正      お — 誤

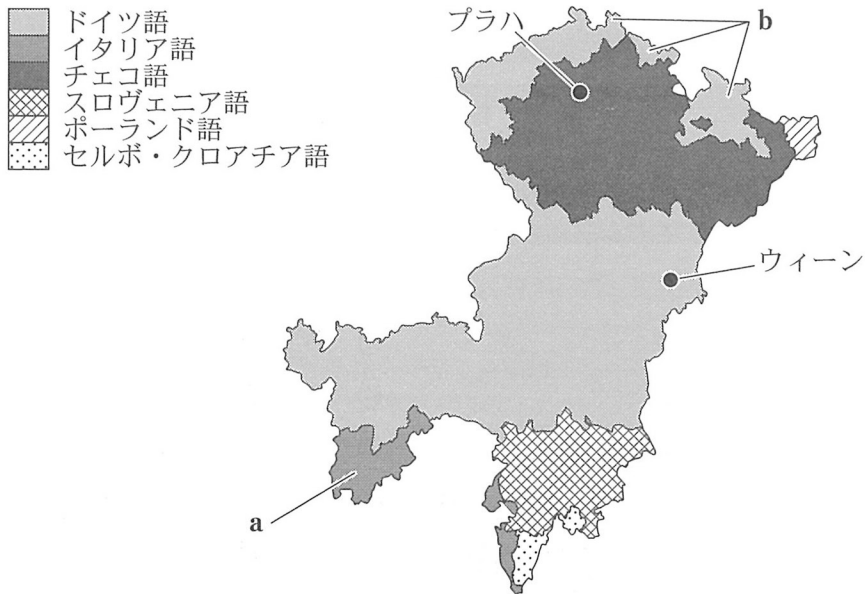
③ え — 誤      お — 正

④ え — 誤      お — 誤

## 旧世界史 A

B 次の図は、1910年にオーストリアで行われた国勢調査に基づいて、日常的に話されていた言語の地域分布の一部を示したものである。

図 オーストリアにおける言語の地域分布の一部



(*Österreichische Statistik, Neue Folge, Bd.1/H.1, 1912* より作成)

図には、それぞれの地域において、住民の50%以上が話していた主要言語が示されている。しかし、それぞれの地域では、主要言語以外の別の言語も話されていた。例えば、図中のa地域にはドイツ語の話者が、また、b地域にはチェコ語の話者が、主要言語の話者に混じって暮らしていた。異なる言語を話す人々が混住する状況は、かつてのオーストリアではごく普通のことであったが、⑥ 19世紀から20世紀にかけて高揚する、ネーション(民族、国民)の統一や自治・独立を目指す国民主義的な運動を背景に、しばしば紛争の火種となった。

1919年、a地域を含む南ティロール(南チロル)は、イタリアに イ。また、b地域の方は、チェコスロヴァキアの一部に組み込まれた。どちらの地域でも、ドイツ語を使用する権利が制限されるなど、ドイツ語話者は、政治的にも文化的にも圧迫されていく。

このような状況を前に、ドイツは、国外に住むドイツ系住民の「擁護者」を自任して、第一次世界大戦後に成立した国際秩序である **ウ** の変更や、b 地域などに対する国境線の引き直しを <sup>もくろ</sup>目論んだ。一方、南ティロールのドイツ語話者に対して、ドイツは、対立していたイタリアとの関係改善に向けて、1939年10月、イタリアと「選択」政策を実施することで合意した。この政策により、南ティロールのドイツ語話者は、「ドイツ人」として生きるためにドイツ領内に移住するか、イタリア領内に残って「イタリア人」として生きるかの二者択一を迫られたのである。

このように、主要なネーションとは異なる文化や慣習を持つ人々は、「マイノリティ(少数民族)」として、しばしば「排除」や「同化」の対象とされた。このことは、今日なお、重要な問題を提起していると言えよう。

問 4 文章中の空欄 **イ** に入れる文と、**ウ** に入れる語との組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **25**

- ① イー トリエステとともに割譲されたが、フィウメは割譲されなかった  
ウーウィーン体制
- ② イー トリエステとともに割譲されたが、フィウメは割譲されなかった  
ウーヴェルサイユ体制
- ③ イー フィウメとともに割譲されたが、トリエステは割譲されなかった  
ウーウィーン体制
- ④ イー フィウメとともに割譲されたが、トリエステは割譲されなかった  
ウーヴェルサイユ体制

## 旧世界史 A

問 5 下線部⑤について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① フランクフルト国民議会は、ドイツ統一の方針として、大ドイツ主義を採用した。
- ② ロシアは、ハンガリーとの間で、二重帝国を成立させた。
- ③ ギリシアは、独立戦争の際に、イギリス、フランス、ロシアの支援を受けた。
- ④ サルデーニャ王国は、フランスに対して、イタリア統一戦争を起こした。

問 6 前の文章を参考にしつつ、マイノリティに対するナチス＝ドイツの政策について述べた次の文あ・いの正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 27

あ ナチス＝ドイツ支配下の地域では、ユダヤ人やロマが迫害された。

い ヒトラーは、南ティロールを領有するために、「選択」政策を実施した。

- ① あー正    いー正
- ② あー正    いー誤
- ③ あー誤    いー正
- ④ あー誤    いー誤

C 現在、中華人民共和国の一部となっている新疆には、トルコ系のウイグル族をはじめとして、多くの少数民族が暮らしている。新疆は、清代には㉔藩部の一部とされ、19世紀中頃までは 工。しかし、清末以降は漢人による統治が行われるようになり、1949年には中華人民共和国の統治下に入った。

次の表は、中華人民共和国による人口調査の結果を基に、新疆における漢族と少数民族の人口、及びその比率の変化を示したものである。

表

(単位：万人)

	1953年	1964年	1982年	1990年	2000年	2010年	2020年
漢族	33.21 (6.9%)	232.12 (31.9%)	528.40 (40.4%)	569.54 (37.6%)	748.99 (40.6%)	882.99 (40.5%)	1092.01 (42.2%)
少数民族	444.90 (93.1%)	494.89 (68.1%)	779.75 (59.6%)	946.15 (62.4%)	1096.96 (59.4%)	1298.59 (59.5%)	1493.22 (57.8%)

(2021年新疆統計年鑑の「新疆人口普查基本情況」などにより作成)

この表から、1953年から1982年にかけて、新疆では オ ことが分かる。特に、1959年から1961年にかけては、人民公社を作って農業の集団化を進めた カ の影響により全国各地で食糧危機が起こり、約90万人が中国本土から新疆に移住した。また、1966年から1976年にかけては、毛沢東が権力奪還を目指した キ が新疆でも展開されたが、その期間にも中国本土からの人口流入が続いた。その渦中では、紅衛兵による民族文化の破壊も行われた。

1970年代末から、中国は市場経済を導入して経済の成長を図った。その動きは、民主化運動を弾圧して国際的批判を浴びた事件により一時停滞するが、1992年から再び加速した。また、2000年からは西部大開発を開始し、沿海部に比べて発展が遅れていた内陸部への巨額投資を進めた。新疆では、1980年代末から1990年代にかけてウイグル族による政府への抵抗運動や暴動が頻発しており、経済発展により彼らの反発を抑えることも、西部大開発の目的の一つであった。この政策により、新疆では油田開発などが行われ、経済発展が急速に進むことになる。



## 旧世界史A

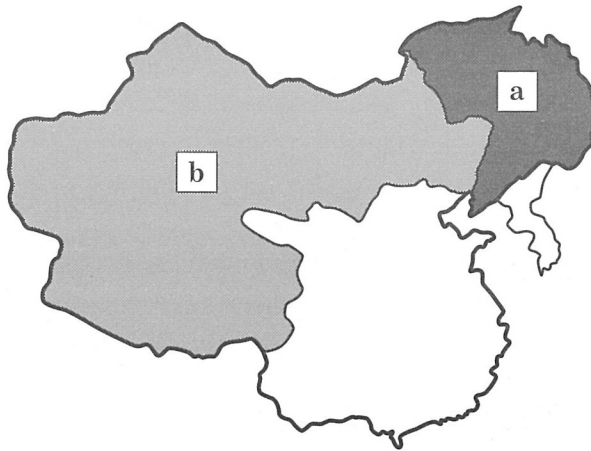
問 7 文章中の空欄 **工** に入れる文あ・いと，下線部㉓に該当する地域 a・b との組合せとして正しいものを，後の①～④のうちから一つ選べ。

28

**工** に入れる文

- あ 重要な役職で，満洲人と漢人が併用された
- い 現地の自治が認められた

下線部㉓に該当する地域



- ① あ — a
- ② あ — b
- ③ い — a
- ④ い — b

問 8 文章中の空欄 **オ** に入れる文う・えと、 **カ** ・ **キ** に入れる語との組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

29

**オ** に入れる文

う 漢族人口の増加数が少数民族のそれを上回り、その比率も約 4 割に達した  
 え 漢族人口の増加数は少数民族のそれに及ばないが、その比率は約 6 割に達した

	オ	カ	キ
①	う	文化大革命	大躍進
②	う	大躍進	文化大革命
③	え	文化大革命	大躍進
④	え	大躍進	文化大革命

問 9 前の文章を参考にしつつ、1980 年代以降における新疆の少数民族の状況について述べた次の文お・かの正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 **30**

お 天安門事件が起こった年から、西部大開発が開始された年までの間、新疆ではウイグル族による政府への抵抗運動や暴動が頻発した。

か 西部大開発の開始以降、新疆では急速に経済成長が進んだことで、民族問題は見られなくなった。

- ① お—正    か—正
- ② お—正    か—誤
- ③ お—誤    か—正
- ④ お—誤    か—誤